

A 県における子育て支援ニーズに関する調査研究 (その3) ——保育士からみた子育て支援ニーズの変容について——

富田喜代子・中岡泰子・小川佳代・前田宏治
加藤孝士・高橋順子・石原留美・尾崎八代
中澤京子・三木章代・吉村尚美・江口実希

A Study on the Needs for Supporting Child Rearing in A Prefecture (Part 3)
Changes of its Needs Viewed from Nursery School Teachers

Kiyoko TOMIDA, Yasuko NAKAOKA, Kayo OGAWA, Koji MAEDA
Takashi KATO, Junko TAKAHASHI, Rumi ISHIHARA, Yayu OZAKI
Kyoko NAKAZAWA, Fumiyo MIKI, Naomi YOSHIMURA and Miki EGUCHI

ABSTRACT

The purpose of this paper was to clarify the changes of childcare support as nursery school teachers in A Prefecture see it. In order to achieve this purpose, the data based on interview investigations were collected from 10 nursery school teachers who work in eight regional child support centers. The major findings can be summarized as follows:

- 1) There was considerable lowering of mother's childcare power.
- 2) Parents without confidence for childcare increased.
- 3) A domestic transformation, such as nuclear families, divorce and single parents was seen. The cooperation of grandparents decreased.
- 4) It was remarkable that there were no people to talk about child-rearing anxiety to.
- 5) The parents who looked for a friend increased their involvement in various networks.
- 6) The number of children decreased in areas.

KEYWORDS: childcare support, nursery school teacher, change of child-rearing anxiety, cooperation, collaboration

I・研究の所在と目的

合計特殊出生率が1.57になった1989年から少子化問題が一般化し、国は少子化対策としての子育て支援施策を次々に展開してきている。1994年「少子化対策推進基本方針」に基づく重点施策の具体的実施計画として策定されたエンゼルプラン、更に1999年には新エンゼルプランが策定されたが、少子化はくい止められず、引き続き2004年子ども子育て応援プラン（少子化社会対策大綱に基づく重点施策の具体的実施計画）が策定され、「少子化対策基本法」や「次世代育成支援対策推進法」により、国・地方公共団体・事業主・国民の責務について規定し、具体的には、雇用環境の整備、保育サービス等の充実、地域社会における子育て支援体制の整備、母子保健

医療の充実、ゆとりある教育の推進、生活環境の整備、経済的負担の軽減、教育及び啓発などの施策の推進を図ることが規定された。（柏女 2005）

2010年度には、「子ども・子育て新システム3法案」が策定され、その後内閣府は、「子ども・子育て支援法案」と「子ども・子育て支援法及び、総合子ども園法の施行に伴う関係法律一部を改正する法律案」を審議し、2014年8月22日には、「子ども・子育て3法」が公布された。このような国の施策もあり、毎年低下の傾向にあったが、2010年から現在まで横ばい状態が続き2012年には、16年ぶりに1.41となってきた。（厚生労働白書 20015）

一方保育の指針である「保育所保育指針」は、少子化が社会問題化された同時期の1990年に、1965年に制定された「保育所保育指針」は、「新保育所保

育指針」として改正され、保育所の社会的役割や保育士の役割を拡大していった。保育士の役割は、子どもの育ちの援助である「保育」の業務と、保護者の子育てに対する援助である「保育指導」の2つが規定され、「保育サービス」という文言が保育業務の中に位置づけられた。その後、1999年には「新保育所保育指針」の第1次改定があり、在籍している保護者の子育て支援だけでなく、地域の全ての子育て家庭の子育て支援を視野に入れた保育所運営がますます求められ、具体的には新築または増改築する保育所には「子育て支援センター」が併設された。「子育て支援センター」は保育所に併設されているだけでなく、駅や公民館の中、また過疎化が進む市町村では、統廃合されて空き屋になった幼稚園や保育園が「子育て支援センター」として機能しているところもある。

しかし今回は保育所に併設されている「地域子育て支援センター」で2012年11月～2013年1月にA県17カ所の地域子育て支援センターに通っている子どもの親630名を対象に調査したデータと、その支援センターで働いている保育士へのインタビューを基にして、子育てニーズの変容を考察し、今後の課題を明らかにすることをこの研究の目的とする。

Ⅱ・方 法

1) 調査の手続き

2012年11月～2013年1月～2013年3月にA県内8ヶ所の地域子育て支援センターに勤務している保育士8名を対象にインタビュー調査を実施した。8ヶ所のうち2ヶ所の子育て支援センターは支援センター担当保育士2名がそれぞれインタビューに答えてくれた。尚地域子育て支援センターの選定は、同時期にアンケート調査を依頼した子育て支援センターの保育士を対象とした。

インタビューは、あらかじめ簡単な質問項目を用意し、それらをおおまかな目安として、協力者に自由に語ってもらう、半構造化インタビューの形をとった。原則として協力者と1対1でおおよそ60分～90分にわたってお話をうかがった。尚本研究に当た

り、四国大学倫理委員会の承認を得た。インタビューについては、該当施設の施設長に研究の目的と方法を説明し、承諾を得たあと、保育士にも研究の目的方法を説明し承諾を得て、インタビューを行った。

2) インタビューガイド項目

【基本的属性項目】

- ①あなたの年齢（出生年）や保育士の経験年数、子育て支援センターの勤務年数、勤務地の特色をお話し下さい。

【質問項目】

- ②あなたはどのような子育て支援をされていますか。具体的にお話し下さい。
- ③保育士の立場からみた、子育て家庭の不安や悩みは、どのようなものがありますか。
- ④子育てニーズの変容について、お気づきのことがありましたら、お話し下さい。
- ⑤今後どのような子育て支援が必要だと思えますか。具体的にお話し下さい。
- ⑥子育て支援として大学に求めるものは何かございますか。ご自由にお話し下さい。

3) インタビュー対象者の属性

子育て家庭を支援することを目的としている「子育て支援センター」の利用者は、日替わり利用者が多く、支援ニーズも多様で、一家庭が3ヶ所以上のセンターを重複利用していることから、継続的支援が難しい。また、親の育児相談を担っていることもあり、保育経験の豊かな保育士が担当している。今回の8ヶ所10人の平均経験年数は18.9年である。

インタビュー対象者の年齢、保育経験年数、子育て支援センターの経験年数を表1に示す。

4) 子育て支援センター利用者の特徴

支援センター利用者は、転勤家族や育児休業中の家庭や保育所を利用したくてもできない待機児家庭が多く、三歳児神話に翻弄されている家庭は少ない。今回の8ヶ所はA県の中でも、比較的住民の多い地域であり、住民の少ない、過疎地域は含まれていない。

表1 インタビュー調査の属性

	Aセンター	Bセンター	Cセンター	Dセンター	Eセンター	Fセンター	Gセンター	Hセンター	
公・私立の別	私立	私立	私立	私立	公立	公立	公立	公立	
子育て支援センターの設置時期	平成元.10～	平成8.11～	平成11.4～	平成20.12～	平成16.4～	平成16.4～	平成23.4～	平成24.4～	
年齢	46歳	55歳	Aさん；30大前半 Bさん；30代後半	58歳	55歳	Aさん；54歳 Bさん；53歳	49歳	46歳	
経験年数	保育士	19年	35年	Aさん；7年 Bさん；10年	22年	35年	Aさん；33年 Bさん；28年	29年	24年
	子育て支援センター	7年	2年	Aさん；1年 Bさん；2年		2年	Aさん；2年 Bさん；2年	2年	1年

表2 子育て支援センター利用者の特徴

	Aセンター	Bセンター	Cセンター	Dセンター	Eセンター	Fセンター	Gセンター	Hセンター
利用者の特色	①転勤族	・転勤族	・転勤の方が多い					・転勤で初めて来られた人
	②外国人			・外国人				
	③待機児			・母親の仕事に行く家庭は年々増加	・なかなか保育園に入所できない ・就労していないから預けられない家庭の人			
	④発達が気になる人				・発達の気になる子どもをお持ちの親			
	⑤育休中の人							・育休中
	⑥家族で子育てをしないとイヤな人			・一定の期間まで子育ては私の力だという母親も多い	・子育てで不安を抱えた人			

5) インタビュー内容の分析方法

インタビュー内容のテープおこしをする。その内容を質問項目と子育て支援センターごとの表に写し、その中からキーワードを抽出して要約する。その抽出した内容からサブカテゴリーを導き出す。そして、そのサブカテゴリーからカテゴリー別に分類し、表に整理をして考察の資料とする。今回は質問項目①③④⑤を分析考察する。

Ⅲ・調査結果と考察

1. 保育士の立場からみた、子育て家庭の不安や悩みについて

保育士の立場からみた、子育て家庭の不安や悩みについては、①子どもの発育や発達についての悩み②トイレトレーニングの時期や方法、また夜尿や頻尿等、子どもの排泄についての悩み③離乳食の時期や方法、好き嫌い、食事量等食事についての悩み④言葉の後れ遅れや構音障がい吃音、親の話を聞かないので、関わり方が分からない、どこに相談に

行ったらいいのかわからない等、発達障がいに関する悩み⑤断乳の時期や方法の悩み⑥子どもとの関わり方や遊び方が分からない悩み⑦3歳児神話に翻弄されたり、親自身に自信がなく子を育てることの責任の重さに辟易していたり、生活時間に余裕が持たず精神的に追い詰められている⑧仕事に就きたいが、一度家庭に入ると、社会がなかなか子育て中の母親を受け入れてくれない。企業が求める人材と自分の希望とが合わない等、仕事をしたいがなかなかできないという悩み⑨祖母が子どもに手を出すが嫁の立場では、言えない。離婚したいと思っているが難しい。嫁姑の問題⑩保育所の待機児童の問題⑪子育て中の友だちが欲しいとか、子育てについての情報が欲しいなど11のサブカテゴリーを抽出した。また11のサブカテゴリーから、一つ子ども自身の問題、二つ親自身の問題、そして環境の問題と三つのカテゴリーに分類することができる。(表3参照)

同時期に地域子育て支援センターの親や家庭に対するアンケート調査を集計した結果、発育・発達についての悩みが87.1%であった(中岡 2013) こと

からも、子育て中の親は、子どもの問題で悩んでいることが分かる。そして親の問題として、同調査の夫婦で楽しむ時間がない67.1%や仕事との両立37.4%（中岡 2013）が難しいとの悩みも子育てが楽しめない要因である。そして、アンケート調査項目にはなかった環境の問題が、保育士の立場からみた親や家庭の悩みとして語られたことは、今後の地域子育て支援センターの課題の一つが見えてきたのではないだろうか。

2. 保育士からみた、子育てニーズの変容について

保育士からみた、子育てニーズの変容は、一つ親自身の変容として、①親中心の子育てや人形抱きを

している親など母親の育児力の低下②子育てに自信がない親③社会から取り残されていると感じている親やただただ不安で子育てを楽しめない親が多くなった。二つ家族・地域社会の変容として、④核家族や離婚・一人親などの家庭の変容⑤祖父母の協力の減少⑥相談者の不在⑦ネットワークで友だちを探す親の増加⑧地域の中に子どもがいない⑨赤ちゃんを連れて行く施設がない等家族や地域社会の変容が子育てを難しくしてきている。そして、このような地域子育て支援センター利用者のニーズを受けて保育士は、公的機関への働きかけや地域社会との連携を深めながら、保健師・看護師・民生委員・児童委員・臨床心理士など専門職の方との連携を強め、保

表3 保育士の立場から見た子育て家庭の不安や悩みは、どのようなものがありますか。

カテゴリ	サブカテゴリ	Aセンター	Bセンター	Cセンター	Dセンター	Eセンター	Fセンター	Gセンター	Hセンター
子どもの問題	①発達	・成長の部分			・発達の心配	・夜泣きのこと	・（他の子と比べて）発達		・言葉、発音
	②排泄	・トイレトレーニング				・トイレトレーニング	・おもつが取れない		・トイレトレーニング
	③食事	・食事面などの生活習慣の悩み	・何かを食べてくれないなど、食べることの悩み ・好き嫌いが多い			・食事のこと（ジュースが欲しいと言っているが家にはない場合どうしたらよいか）			・離乳食の質問がある ・食事の面での悩み
	④障がい				・言葉の遅れ ・「ひのみね」など専門関連機関との連携の取り方				
	⑤断乳					・断乳の不安	・お乳が切れない ・断乳ができてない		
親の問題	⑥育児方法		・育児のエピソードが話せない ・具体的な育児のイメージがもてない						・子どもとのかかわり方
	⑦母親の価値観・問題		・「お母さん、どうだった？」って聞いて、「うちもそう」と言ったら安心する	・3歳児神話 ・幸せの持ち方が、保育園を利用して、全然違う ・時間の余裕がない、忙しい	・保護者自身が安定してない	・日中の大半は、自分に責任があると思っている母親 ・育休中の方が多いが、自分の子育てで人とは違うと言う。 ・子育てで仕事の両立不安		・本当の支援、保護者対応を見直さないといけないことが課題としてある ・わがままな母親が出てくる	
	⑧就労問題			・仕事したいが雇ってくれない ・企業が求めている人材とのミスマッチ ・仕事を辞めれない	・子どもを預けて仕事に行きたいが、難しい				
環境（家庭・施設・地域等）の問題	⑨虐待・家庭内問題						・嫁姑問題 ・離婚		
	⑩保育所入所基準				・通常保育を希望される方が大変多い			・〇〇保育所に入りたい	
	⑪情報交換		・母親に「他の人に対処法を教えてあげて下さい」と言って情報交換をするようにしている。						

表4 子育てニーズの変容についてお気づきのことがあれば、お話し下さい

カテゴリー	サブカテゴリー	Aセンター	Bセンター	Cセンター	Dセンター	Eセンター	Fセンター	Gセンター	Hセンター
親自身の 変容	①母親の育 見力低下	・母親自身教えて もらってきていない ・子どもがどうし て泣きよめるのが 想像ができない ・子どもと一緒に あそべない、遊び 方を知らない ・関わり方のイ メージがわからない	①子どもをベッ トのように扱って いる親	・何をしてくれる のか求めてくる母 親が多い ・子どもを預けて おしゃべりをする 母親 ・赤ちゃんが乳首 離したらやめる母 親 ・子どもに注意が いかず、子どもの 顔や歯に怪我をさ せる	・子育ての仕方が 分からないという ことで、家庭での しつけ等、保育園 に丸投げする母親 が多くなった ・一方で、安全面 への過剰反応をす る母親も多い ・情報に左右され て、どうしようか 迷っている母親が 多い ・基本的な生活習慣 （食事、排泄、就 寝等）の難しさを 感じている母親が 多い	・人形抱きをする する母親など、子 育ての知識が全く ない母親が来ている ・親中心の生活を している者もいる ・ギャルママ	・タオルやティッ シュを持っていな い、おやつ順番 を守れない母親な ど、考えられない 子育ての低下がみ られる ・朝、何食わずに センターにくる子 ども、お菓子だけ 食べてきたという 子どもがいる ・子どもが走って も、止められない 母親がいる ・保育士が必死で している時に立ち 話をしてる親、 ボールプールに入 り遊んでいる親な ど、親のマナーが 低下している、も っと育ってほしい ・誰かがしてく るだろうというこ とで片付けをしな い親が増えてきた	・時代の変化の中 で、親自身が変 わってきた	
	②子育てに 自信がない	・子育てに関して 自信がない	・クリスマス会、 お楽しみ会などで、 母親に何かをして もらい、母親にも 光を当てる機会を つくり自信をもっ てもらおうという心 ろみをしている						
	③ただに不 安	・不安がたくさん ある	・仕事がしたい、 社会から取り残さ れたように感じて いる母親がいる	・話がしたいとか、 心の悩みを持った 人が予約してくる ・私の悩みを聞いて ほしいという母親	・家庭でしっかり 育てておかなけれ ばいけないところ を、どうしていい か分からない ・子育てが楽しめ ていない				
家族・地域社会の 変容	④家庭の変 容（離婚家 庭の増加）			・DVが多くなっ た	・核家族化した中 で、相談できる人 が少ない	・離婚 ・生活保護、児童 扶養手当受給者			
	⑤祖父母の 協力の減少	・昔は祖父母のサ ポートが多かった						・昔は祖父母など 助けてくれる人が 周りにいたが、核 家族化で助けてく れる人が少ない	
	⑥祖父母の センター利 用の増加	・祖母ががお孫 さんを連れてケー スが増えた							
	⑦相談者の 不在	・子育てが初めて で、相談する方が いない ・手探り状態の子 育てをしている母 親が多い	・友達、祖父母が そばにいない		・子育ての中で抱 えている不安を聞 くと、泣き出した りする親もいる ・いっぱいばい ばいで子育てされ ていることを分か ってあげる時間・相 手が必要 ・言うところがない、 分かってもらえ ないところがない ・保育士の言葉で ホッとして帰ら れる母親がいる			・子育ての相棒、 支えが必要 ・スタッフと相談、 話がしたい母親が 多い	
⑧ネット ワーク・友 達探しをす る親の増加	・近くで自分に合 うところを探して 行かれる母親多い ・何か所か併用し ながら自分の居場 所作りされている							・いろんなイベ ント巡りのをする人、 子どもの友達を作 りたいという母親も いる	

カテゴリ	サブカテゴリ	Aセンター	Bセンター	Cセンター	Dセンター	Eセンター	Fセンター	Gセンター	Hセンター
家族・地域社会の変容	④地域の中にこそまがない(少子化)		・近所に子どもがいない ・公園に行っても誰もいない						
	⑩赤ちゃんをつれていけない場所がない		・特に赤ちゃんを連れては行くところが無い						
保育士の悩みの変容	⑪公的機関との連携	・子育てで不安の母親に対しては一時預かりをお勧めするなど、行政との連携をしていく				・子育て支援の設置場所、あり方など、行政と離れたほうが自由は大きく面がある			
	⑫他職種との連携		・保育士は何か特技を身につけるべきで、力量が必要	・発達の心配の人は、先生を紹介している ・母親の心の問題は臨床心理士など専門職につなげていくことが必要 ・保育士の経験論だけでなく、助産師・看護師などを派遣して、専門の立場から、保育士や母親に話をしてもらいたい		・保健センターの発育測定時に、担当者を行かせるなど連携をとっているが、家庭訪問が難しい	・地域の方が来て、一生懸命してくれている。母親もできることはしようという気持ちがある		・センターに来られない方をどうするか、ずっと課題である ・通信を見てイベントを巡らされている方がいる ・横の連携が大事である

表5 今後どのような子育て支援が必要だと思われますか。具体的にお話してください。

カテゴリ	サブカテゴリ	Aセンター	Bセンター	Cセンター	Dセンター	Eセンター	Fセンター	Gセンター	Hセンター
支援内容の改善	①発達支援	・成長が気になる子どもの心配				・発達段階で重いお子さんもいる。気づいてない ・発達の遅れのある子どもをもつ母親はどうしたらいいかわからない。迷惑かけたらいけないことを理由に出でこなかったり、時間外に来る			
	②支援内容の検討					・子育てに祖父母もかかわってもらうから安心という声がかえる ・仕事を続けたい母親が多い ・家庭訪問	・センター職員の顔とか分かっているから安心という声がかえる ・仕事を続けたい母親が多い ・家庭訪問	・今までは待つ支援。今後は、支援を届ける。出前そこまで入っていく	
	③母親の精神的支援	・お母さんの悩み、気持ちにちょっと添いながら一緒に考えていく				・寝れていないので、えらいですという母親 ・専門職からみると普通のことで母親にとっては悩みになっているが、なかなか前に出てこない ・母親に寄り添って話すと、悩みが出てくる ・しつけの面でのままの状態ではないのかなど、悶々としたことがいっぱい	・転勤族で父親の帰りが遅く、朝から夜の遅くまでずっと2人きり。母親は精いっぱい泣いてノイローゼ気味に、布団を顔までかぶせてしまうことも ・虐待しているのでは、隣の人に虐待と取られてないかどう思いを打ち明けてくれた。 ・自分を追い詰めてしまう部分がある ・親戚がうるさくて悩んでいる人		

A 県における子育て支援ニーズに関する調査研究（その3）——保育士からみた子育て支援ニーズの変容について——

カテゴリー	サブカテゴリー	Aセンター	Bセンター	Cセンター	Dセンター	Eセンター	Fセンター	Gセンター	Hセンター
支援内容の改善	④友達さがし・ネットワーク作り		・居場所作りと仲間作り ・1人ポツンとおる人には声かけを先輩のママさんに任す。 ・世話をしてくれる母親に声かをお願いすると安心する。保育士ができればらず、母親同士仲良く				・楽しくママ友ができています ・「いい友、おばあちゃんのグループ」「いい友」ができて、違った雰囲気になっている。		
	⑤家族関係の変化への対応			・離婚家庭が増えている ・シングルと言いつつもいろいろな家庭の事情もある					
	⑥職員研修の充実（多文化対応を含む）				・保護者の方も今求めてくるものはすごく多くなっているため、自分に対応できるだけの能力が育っていきにくい		・中国の母親で、なかなかコミュニケーションができないケースで、家庭訪問をし、自分の思いが伝わるように、叩いてしつけるといふように、育て方の違いがある。 ・2人対応で支援をしているが、数合わせでして現状がある。	・家庭訪問の研修に参加したが、生半可な気持ちで参加されても困るといふ感じだった。 ・行政に研修に行きたいといふが、対応が不親切	
	⑦保育所待機児童問題（0～1歳児）								・特に入りにくい0、1歳児の希望が多い。 ・育休明けで復帰したいが満杯 ・仕事をしたいが預け先がないで決められない、仕事がないから、はめてくれないジレンマの話が多い。
保育士の職場環境の改善	⑧保育士の人的配置				・人材確保 ・保育士の獲得とすることがすごく難しい ・保育士不足で受け入れができる状況でなくなっている ・離職が早い		・保育士が足りない		
	⑨保育士の処遇				・低賃金 ・労働に見合っていない ・民間と公立の差を実感 ・政治の力が大きい ・男性保育士の「このお給料では生活ができない」という声				
連携の改善	⑩他職種との連携						・発達の遅れのある人は保健センターと連携しているが、センターに出てこない方をどう引っ張りこんでくるかが課題	・「こんにちは赤ちゃん事業」にくっつけて、保健師さんと一緒に実施 ・県に情報を提供 ・どこまで専門機関につなげていくかが課題	
	⑪地域との連携						・地域の協力をもっととっていく ・地元以外の人の交流		

育士の質の向上が求められていることを認識していることがインタビュー調査により判明した。
(表4参照)

3. 今後の子育て支援について

保育士の考える今後の子育て支援内容の改善として、①具体的な事例を交えた発達・発育についての

知識の伝達や、障がい気づいていない親への助言と親の気持ちを支えること②イベント中心の支援から日常生活・子育ての営みの中での支援をし、地域支援センターでの諸行事の内容を再検討する。また家庭訪問や出前保育の中で、虐待の早期発見をする③母親の子育ての負担感や不安感を理解し、気持ちに添いながら一緒に考えていく姿勢を持ち、母親が子どもを追い詰めてしまわないように精神的支援をする④地域子育て支援センターが、母親の友だちづくりの場としての機能を持ち、親同士の子育てネットワーク作りを積極的に支援する⑤離婚家庭が増えていることもあり、いろいろな家庭の事情を理解して、ソーシャルワーカー的役割としての支援ができるようにする⑥多文化対応や親のカウンセリング的役割、ソーシャルワーカー的役割ができるような研修が必要⑦保育所の待機問題、育休明け復帰の問題を迅速に対応する等7項目の支援内容の改善が語られた。また、地域の民生委員・児童委員・教育機関・専門機関等との連携や、専門職との協同、地域の住民、高齢者との交流・協力等の必要性があると、保育士自らが認識していることが判明した。そして、インタビューの中から、保育士の職場環境の改善として、保育士の人数配置の改善や保育士の処遇改善が急務であることを見逃してはならないと実感した。(表5参照)

Ⅳ・まとめと今後の展望

- 1) 保育士の立場から見た家庭の不安や悩みは、子どもの問題と親の問題そして環境の問題が、相互に関係し、三つの要素が絡み合っている。
- 2) 保育士からみた、子育てニーズの変容については、社会・地域・家庭の変容が親の変容を生み、その質的・量的な変化が保育士の対応を困難にし、保育士の専門性の質的向上が求められている。
- 3) 地域子育て支援センターに求められている子育て支援の課題は、地域の子育て家庭の支援ニーズにあった支援内容の改善であり、地域住民や関係機関との連携を深めながら、保育士の

表6 保育士の立場から見た子育て家庭の不安や悩み

カテゴリー	サブカテゴリー
子どもの問題	①発達
	②排泄
	③食事
	④障がい
	⑤断乳
親の問題	⑥育児方法
	⑦母親の価値観・問題
	⑧就労問題
環境(家庭・施設・地域等)の問題	⑨虐待・家庭内問題
	⑩保育所入所基準
	⑪情報交換



表7 子育てニーズの変容について

カテゴリー	サブカテゴリー
親自身の変容	①母親の育児力低下
	②子育てに自信がない
	③ただに不安
家族・地域社会の変容	④家庭の変容(離婚家庭の増加)
	⑤祖父母の協力の減少
	⑥祖父母のセンター利用の増加
	⑦相談者の不在
	⑧ネットワーク・友達探しをする親の増加
	⑨地域の中に子どもがいない(少子化)
	⑩赤ちゃんをつれていける場所がない
保育士の悩みの変容	⑪公的機関との連携
	⑫他職種との連携

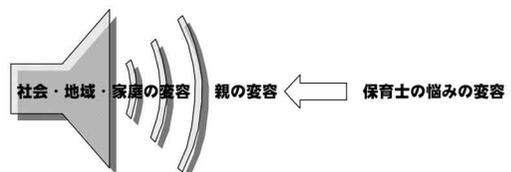


表8 今後必要な子育て支援

カテゴリー	サブカテゴリー
支援内容の改善	①発達支援
	②支援内容の検討
	③母親の精神的支援
	④友達さがし・ネットワーク作り
	⑤家族関係の変化への対応
	⑥職員研修の充実（多文化対応を含む）
	⑦保育所待機児童問題（0～1歳児）
保育士の職場環境の改善	⑧保育士の人的配置
	⑨保育士の処遇
連携の改善	⑩他職種との連携
	⑪地域との連携



職場環境を良くすることで、地域子育て支援センターの機能が充実する。

戦後1955～1957年の神武景気、1958～1961年の岩戸景気、1965～1970年のいざなぎ景気をへて日本は、1985年国内総生産であるGDPが世界2位となり経済大国になった。そして2005年125位になるまでの20年間は、消費社会となり、新人類世代（1961～1970年）とか、ゆとり世代（1986年～1995年）と言われる日本人が生まれた。（近藤 1987）また現在は、個人主義文化を担った人たち、さらには、ITメディアの影響を受けた人たちがいつのまにか身につけた仮想的有能感というべきものがある。他者軽視をする行動や認知に伴って、瞬時に本人が感じる「自分は他人に比べて偉い、有能だ」と習慣的な感覚（速水 2007）を持っている若者が親になった場合、有能だと錯覚しているので、大人と異なる、高次元的に存在可能な別世界を持つ子どもの、さまざまな様相を理解しようとしな。あるがままの子どもを丸ごと受け入れることができるならば、子どもは安定し、気持ちを落ち着けて大人との心の交信が

できるのであるが、そのことが難しい。そして周りの誰か、身近にいる自分の親（祖父母）に助けを求められない仮想的有能感を持った子育て家庭の親がいる。このように社会や親の価値観、文化が急激に変化する中で、依然子育ては、子どもは、太古の昔から変わらない。発育・発達の様子や子育ての難しさは同じである。

今後は、地域の子育て支援センターの保育士とともに、大学の保健師・看護師・助産師・社会学者・特別支援教育者・心理学者・保育のスーパーバイザーが連携し、子育てが楽しくなるような、支援活動に取り組みたいと考えている。

V・文 献

- 1) 加藤孝士 2012「母親の主観的幸福感とソーシャル・サポートの関係—サポートネットワーク、及び関わる人数に着目して—」, 日本小児保健研究, 71(3), 450-454
- 2) 柏女霊峰 2005 次世代育成支援と保育 社会福祉法人全国社会福祉協議会
- 3) 片桐新 2009 不安定社会の中の若者たち 世界思想社
- 4) 木脇奈智子 2012「多様化する「子育て支援」の現状と課題：新たなニーズとそれに対応する事例から」 藤女子大学 QOL 研究所紀要, 7(1), 37-43
- 5) 厚生労働省編 平成25年度厚生労働省白書「厚生労働省政府統括官付政策評価官委託「若者の意識に関する調査」2013年 P112
- 6) 近藤真理子 2012「地域の子育て支援のニーズの変化と今後の課題：支援の充実とその内容についての一考察」, 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, 22, 157-166
- 7) 近藤道郎 1987「'87年度版平均的ニッポン人白書」 広済堂出版
- 8) 森田美佐 2011「子育て支援」はもう十分か？—2000年代からの日本の子育て支援策の成果と課題」, 高知大学教育学部研究報告, (71), 187-196
- 9) 中岡泰子他 2013「A県における子育て支援ニーズに関する調査研究（その1）—子育ての悩みやストレス解消法の地域比較—」 四国大学紀要・人文社会科学編第40
- 10) 日本子ども虐待防止学会 子ども虐待とネグレクト 2013 日本子ども虐待防止学会
- 11) 小川佳代・榮玲子・野口純子・三浦浩美・竹内美由紀・舟越和代・宮本政子・大池明枝, 2010「地域子育て

- て支援事業の効果に関する研究—母親の親性の発達に影響する要因—, 日本小児保健研究, 69(3), 432-437
- 12) 小川佳代・野口純子・竹内美由紀・榮玲子・舟越和代・三浦浩美・植村裕子・大池明枝・松村恵子・宮本政子, 2006「地域子育て支援研究会の活動」, 香川県立保健医療大学紀要, 3, 207-213
- 13) 小川佳代他 2013 A県における子育て支援ニーズに関する調査(その2)—育児ストレスの因子構造—四国大学紀要・人文社会科学編 第40
- 14) 齋藤啓子・三木章代・中澤京子・小川佳代・寺尾紀子 2011「離乳期の子どもの母親の乳離れに関する不安と関連要因」四国大学紀要自然科学編, 31, 35-40
- 15) 正保正恵 2005「福山市における子どもに関する相談事業の研究(4):ふくやま子育て応援センターにおける相談事例のカテゴリー化にみる潜在的子育て支援ニーズ」, 福山市立女子短期大学研究教育公開センター年報, 5, 37-46
- 16) 全国保育団体連絡会・保育研究所編 2013 保育白書 ちいさいなかま社
- 17) 富田喜代子他 2001 保育所の専門性 20~22年科学研究費補助基盤研究(C)研究成果報告書 P93~110
- 18) 村井潤一 1987 子育てと教育を考える ミネルヴァ書房

抄 録

本研究の目的は、A 県における保育士からみた子育て支援ニーズの変容を明らかにすることである。この目的を達成するために、地域子育て支援センター 8 ヶ所に勤務する保育士 10 名にインタビュー調査を実施し、データを集めた。主な知見は次のとおりである。

- 1) 母親の育児力低下が顕著になった。
- 2) 子育てに自信のない親が多くなった。
- 3) 核家族や離婚・一人親などの家庭の変容や祖父母の協力が減少している。
- 4) 相談者の不在が顕著である。
- 5) ネットワークで友だちを探す親が増加している。
- 6) 地域の中に子どもがいなくなった。

キーワード：子育て支援・保育士・子育ての悩みの変容・連携・協働